

平成15年度調査埋蔵文化財展

# 土口・土口の展覧会 2004



財団法人滋賀県文化財保護協会  
滋賀県教育委員会

今年も夏がやってきました。  
毎年恒例の「レトロ・レトロの展覧会」の開催です。

平成15年度。私たちは14の遺跡の発掘調査を行いました。  
どの遺跡も、滋賀の豊かで個性ある歴史文化を今に伝えてくれるものでした。

残念ながら、私たちが調査をした遺跡のほとんどはもうありません。  
調査地には、新しい道路や建物ができ、広い田んぼや水路になったりしています。  
残されているのは、私たちが発掘調査で写した写真や実測図面、  
そして土の中から出てきた土器などの出土品だけです。

財団法人滋賀県文化財保護協会では、  
そういった発掘調査の記録や出土品の内容を報告書にとりまとめる仕事も行っています。  
さらにその成果を県民の方々にわかりやすく公開していくことにも積極的に取り組んでいます。  
ご覧いただいている「レトロ・レトロの展覧会」もそのひとつ。  
出土したばかりの出土品や遺跡の写真をいち早くみなさま方に見ていただくというものです。

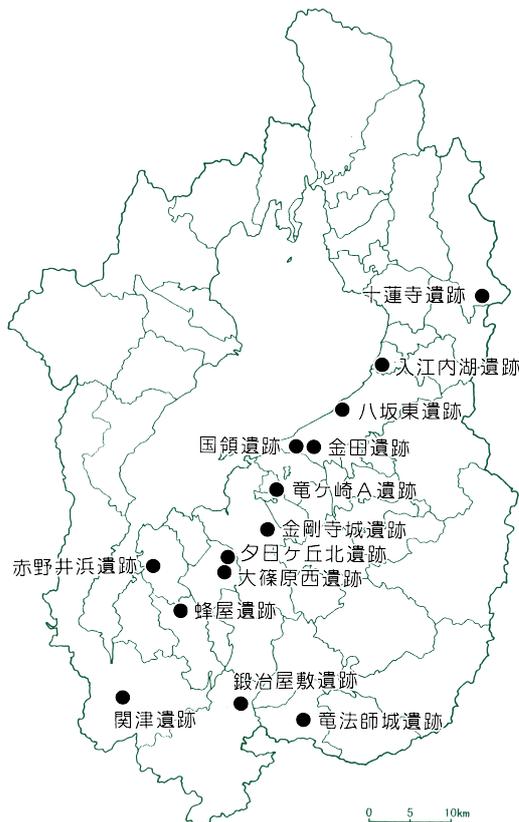
埋蔵文化財は郷土の歴史を今に伝える大切な財産です。  
郷土の歴史を知り、正しく理解することは、私たちの未来にとって大切なことです。  
過去の出来事をやり直すことはできませんが、  
過去の歴史を繰り返し見つめ直して理解を深めることで、  
未来をより良い方向に変えていくことはできるはずです。

郷土の歴史を今に伝える文化財を大切に守り、未来へと引き継いでいこうという思い。  
「レトロ・レトロの展覧会2004」をご覧いただいたことがきっかけとなって、  
みなさま方の間に広まっていけば幸いです。  
そして、将来を担っていく子供たちにとっては、  
郷土の歴史に関心を持つきっかけになってほしいと願っています。

財団法人滋賀県文化財保護協会

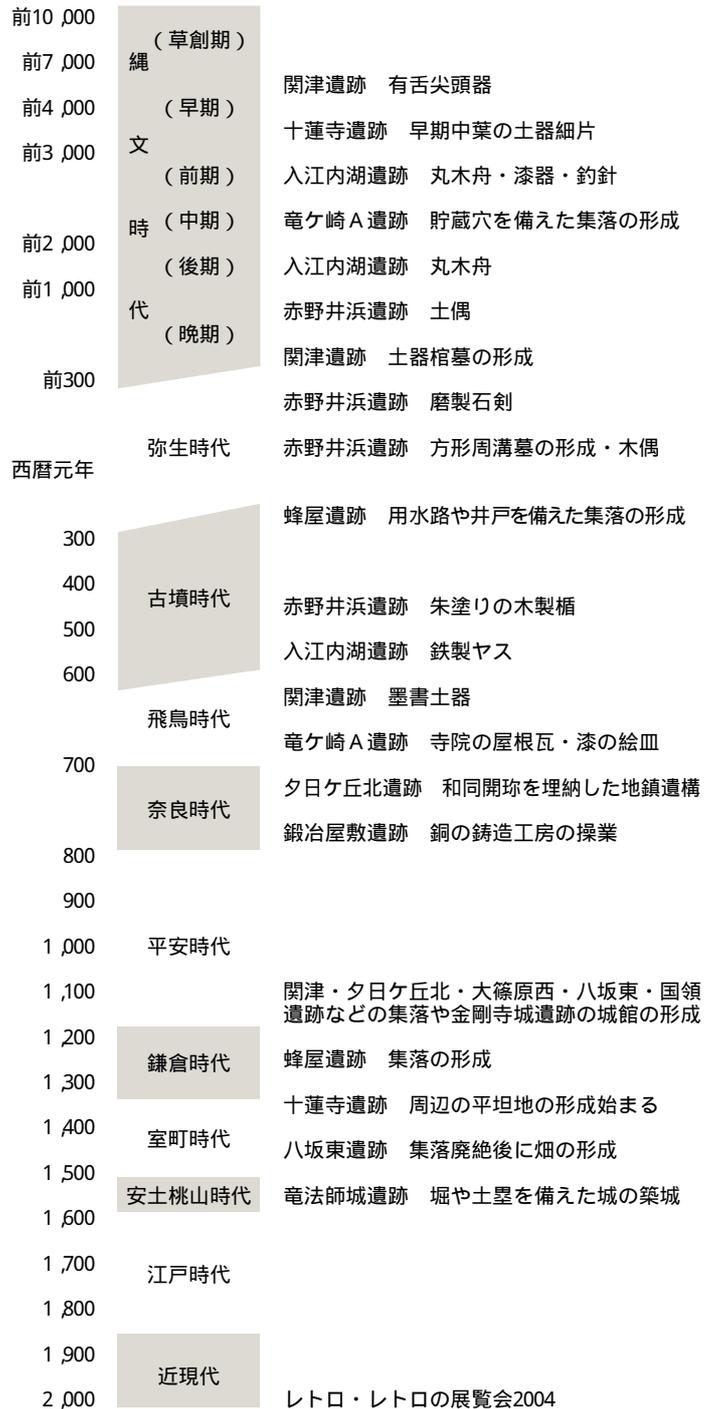


入江内湖遺跡	2
湖の幸をとる 丸木舟・釣針・ヤス	
竜ヶ崎A遺跡	4
山の幸を食べる 貯蔵穴・鹿・石皿	
赤野井浜遺跡	6
願いのかたち 土偶・木偶	
関津遺跡	8
飛鳥から近江へ 墨書土器	
夕日ヶ丘北遺跡	10
土地を鎮める 和同開珎	
蜂屋遺跡	11
大篠原西遺跡	12
里人の住む東山道沿いの村	
十蓮寺遺跡	13
八坂東遺跡	14
河口の暮らし 畑を耕し、魚を捕る	
金剛寺城遺跡	15
国領遺跡	16
愛知川下流域の中世集落	
金田遺跡	17
竜法師城遺跡	18
杉川流域を見下ろす山城	
鍛冶屋敷遺跡	19
平成15年度 財団法人滋賀県文化財保護協会事業報告	20



## レトロ・レトロの展覧会2004

期 間 / 平成16年7月17日～8月31日  
 会 場 / 滋賀県埋蔵文化財センター  
 (大津市瀬田南大萱町1732 2)  
 主 催 / 財団法人滋賀県文化財保護協会  
 滋 賀 県 教 育 委 員 会



# 入江内湖遺跡

## 湖の幸をとる 丸木舟・釣針・ヤス

いりえないこいせき

さかたぐん まいはらちょう いりえ  
坂田郡米原町入江



縄文時代前期前半の丸木舟

入江内湖遺跡は昭和19年に干拓された旧入江内湖の範囲に広がる、縄文時代から平安時代にかけての集落跡です。

調査では縄文時代の丸木舟や動物の牙や骨で作った釣針やヤス、古墳時代の鉄製のヤスなど、湖岸で暮らした人々が使っていた魚とりの道具などがいろいろと出土しました。



縄文時代後期前葉の丸木舟

縄文時代前期前半の丸木舟は長さが5.47mもあるスリムな形。約5,500年も前の国内最古級の丸木舟がほぼ完全な形で出土しました。



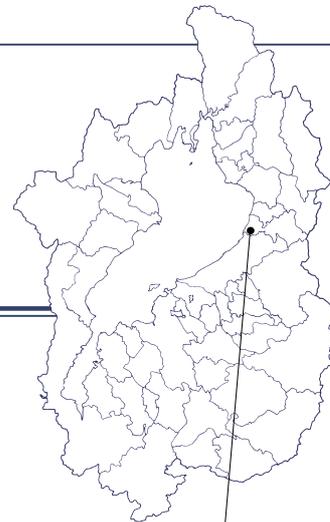
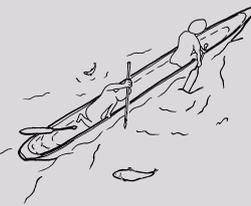
丸木舟をこぐための櫂（オール）



遺跡遠景（手前は平成14年度調査区）

### 丸木舟（まるきぶね）

太さ50～60cm、長さ5 m前後の丸太を削りぬいた舟で、最も古い乗り物のひとつです。木の表面を焦がして削りやすくしたりして石の手斧で形を整えたと考えられます。県内では30艘が出土していて、そのほとんどは縄文時代後期から晩期にかけてのもので



### 入江内湖遺跡

JR米原駅の南西に広がる水田地帯の中、現在の琵琶湖岸から約1 km内陸にあり、かつては内湖のほとりの生活域だった。

国道8号米原バイパス建設に伴う調査で、平成13年度から継続して実施している。

この遺跡の約1 km南には、12艘の丸木舟が出土した彦根市松原内湖遺跡がある。



漆塗りの木製容器（縄文時代前期前半）

約5,500年前の漆塗り容器がとてもよく残っていました。早くからこの地域の人が漆塗りの高い技術を身につけていた可能性を示すものといえます。



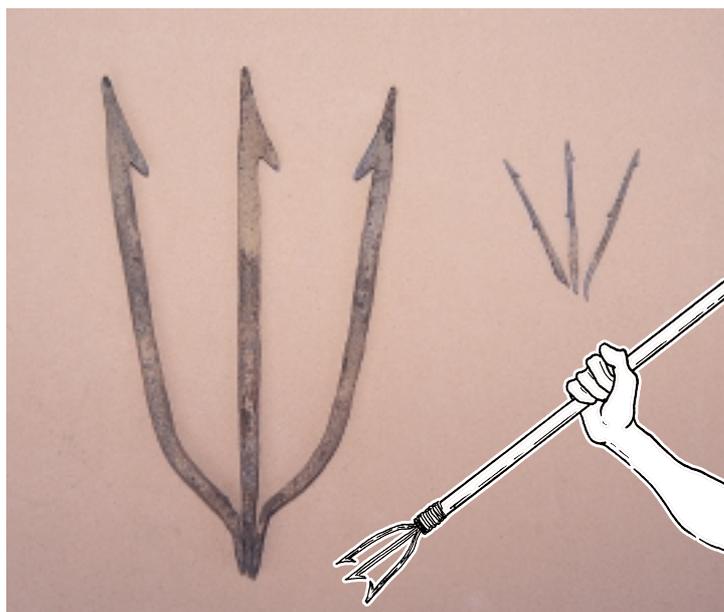
出土例の少ない縄文時代早期末から中期末頃の釣針です。獲物はフナやギギぐらいの大きさの魚だったと思われます。

猪の牙で作った釣針（全長2.9cm）  
（縄文時代早期末～中期末）



鉄製ヤスの出土状況

古墳の副葬品として出土することの多い鉄製のヤスが珍しく実際に使われていたような状態で出土しました。魚を狙って突いたところ、湖底に突き刺さり、柄からはずれてしまったような様子が見られます。



古墳時代後半の鉄製ヤス  
（全長：左23.3cm 右6.2cm）

# 竜ヶ崎 A 遺跡

## 山の幸を食べる 貯蔵穴・鹿・石皿

りゅうがさきえいいせき

がもうぐん あづちちょう しもといら  
蒲生郡安土町下豊浦

竜ヶ崎 A 遺跡は干拓された小中の湖に面した安土山の山麓にある、縄文時代から奈良時代にかけての集落跡と寺院跡です。

調査では縄文時代中期後葉の貯蔵穴から縄文土器や鹿の角や骨、石皿、石鏃などが出土しました。また、飛鳥時代後半から奈良時代頃の瓦や土器も出土しており、近くに寺院があったことがうかがえます。



貯蔵穴から出土した鹿の角  
(猟具や石器作りの道具に使われました)



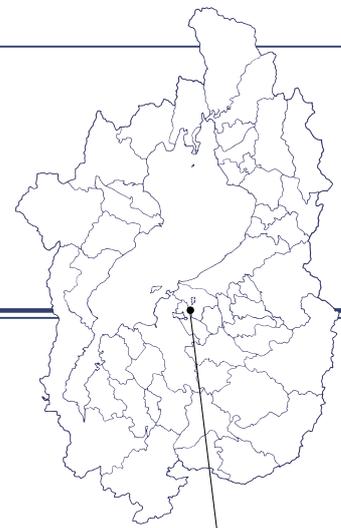
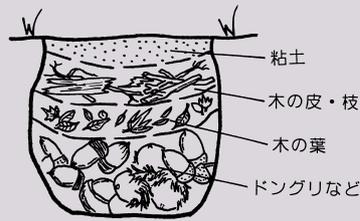
石皿と磨石(すりいし)  
(石皿は木の実のアクで黒ずんでいます)



貯蔵穴から出土したこの土器は、波のようにうねる口縁や把手を持ち、渦巻きのような紋様が複雑に施されています。これは東海地方西部や中部地方の特徴を持つもので、この地域と人や物の交流があった証といえる出土品です。

### 貯蔵穴（ちょぞうけつ）

ドングリや栗、クルミ、トチの実などを蓄えておくために地面に掘った穴です。ドングリなどをぎっしりと詰めた上に、木の葉や木の皮を重ね、粘土で蓋をして食べ物が少なくなる季節に備えていたと考えられます。



### 竜ヶ崎A遺跡

特別史跡安土城跡がある安土山の北西山麓にある。

県営ほ場整備事業に伴う調査で、今は新しい排水路ができあがっている。

史跡大中の湖南遺跡へは徒歩で10分たらず。



貯蔵穴に捨てられた縄文土器

貯蔵穴はジメジメしていて、木の实を乾燥させずに貯蔵しつつ、虫食いを防ぐ作用も備えていた可能性があります。鹿の角や土器などは、使われなくなった貯蔵穴に捨て入れられたようです。

貯蔵穴は平らな底をもつ直径0.7~0.9mの円形の穴で、1~2mの間隔で4基見つかりました。



貯蔵穴が見つかった調査区



寺院に葺かれていた屋根瓦



漆の絵皿に使われた土器

寺院の屋根瓦の破片のほかに、須恵器の鉢や漆の付着した杯など寺院で使われる器などが出土しています。

# 赤野井浜遺跡

## 願いのかたち 土偶・木偶

あかのいはまいせき

もりやまし すぎえちょう  
守山市杉江町

赤野井浜遺跡の調査では、琵琶湖に向かって流れ込んでいく3本の川の跡と、川のほとりに建てられていた建物の柱穴や弥生時代のお墓である方形周溝墓などが見つかりました。川の中からは縄文時代晩期から鎌倉時代にいたる時期の土器や石器、木製品などが大量に出土しています。特に木製品は高い地下水位によって守られてきたため、古墳時代の朱塗りの楯の一部や弥生時代の漆塗りの櫛、鍬や鋤などの農具、建物や船の部材などが、傷みの少ない状態で出土しました。



木偶と一緒に供えられていた弥生土器  
底部近くに穴を開けています



木偶が出土した方形周溝墓

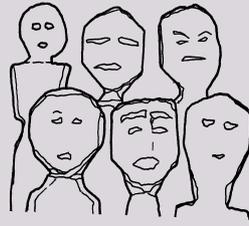
方形周溝墓は、四角く低い土盛りの周囲を溝で囲み、土盛りの中央付近に木の棺ひつぎを納める弥生時代の墓です。今回の調査で見つかった弥生時代中期前半の方形周溝墓は一辺約9mの大きさで、周囲を囲む溝からは墓に供えられた弥生土器や木偶が出土しました。

木偶は長さ63.2cm以上の板状の棒材で作られていて、顔と肩と腰の部分を切り込みによって表現し、顔には目と口が削り込まれています。下端は失われていますが、地面に突き刺せるよう少し尖った作りになっていたものと考えられます。

方形周溝墓出土の木偶

## 木偶（もくぐう）

墓に葬られた人を弔う儀式で使われた、木製の素朴な人形です。目や口、肩、腰のくびれなどが表現されているものなどがあり、先祖のたましいである祖霊神を象ったと考えられています。滋賀県内では9例目の出土で野洲川周辺で多く出土する傾向があります。



赤野井浜遺跡

琵琶湖大橋の約5km南、湖岸道路の東側に広がる水田地帯にあって、もりやま芦刈園の北隣にある。

溜め池施設整備に先立つ調査で、平成16年度も引き続き調査を行う計画である。

土偶は人や動物の形をした土で作った人形で、呪術やまじないに使われたと考えられています。この土偶は下半身だけが残されていて、足に指の表現、背中に紋様があって丁寧に作られています。縄文時代晩期前半の土偶としては自立する珍しいものです。



土偶（縄文時代晩期）



朱塗りの櫛（古墳時代）



磨製石剣（ませいせっけん 弥生時代前期末～中期前半）



調査地の遠景  
（琵琶湖岸までは1kmたらずです）

# 関津遺跡

## 飛鳥から近江へ 墨書土器

せきのついせき

おおつし せきのつごちょうめ  
大津市関津五丁目

奈良方面から京都の宇治田原を経て滋賀県へと入ってくる道筋が、関津の峠を越えて最初に出会う広い平野部の入り口部分に関津遺跡はあります。東山道とうさんどうや田原道たわらみちといった古道が通り、かつては瀬田川沿いに港もあった水陸交通かなめの要の地です。

平成14年の秋に発見された遺跡ゆげつせんとうきで、縄文時代早期の有舌尖頭器や飛鳥時代の墨書土器が出土し、平安時代末から鎌倉時代にかけての集落跡が見つかるなど、地域の歴史を解き明かす多くのことが明らかになってきています。



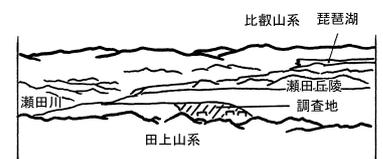
形の特徴などから640年代頃のものと思われる土師器はじきの底に「四十」もしくは「罎あすか(「岡」の異体字をさらに省略したもの)」と読める文字が記されていました。飛鳥から持ち込まれたと思われるこの土器の出土は、この地域と中央政権との結びつきを示しており、この頃に瀬田丘陵周辺で始まる鉄生産や、藤原宮への材木の運び出しが万葉集うたに詠われた田上山の山林伐採の始まりなどに関わる可能性を裏付ける貴重な発見といえるものです。



田上山系笹間ヶ岳(標高433m)からの遠景

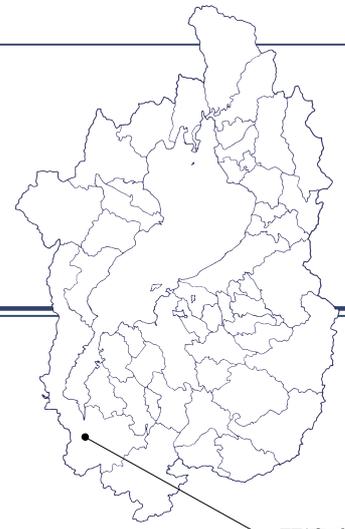


有舌尖頭器(縄文時代早期)



## 墨書土器（ぼくしょどき）

持ち主や使用場所、時には落書きやまじないの言葉などが墨で書かれた土器です。文献資料の少ない地域や時代の歴史を知る手がかりとなる貴重な文字資料で、地方への文字の普及過程を示すものでもあります。県内では寺院や宮都、役所関連の遺跡などから約1,100点が出土しており、北陸道や東海道・東山道などの幹線道沿いにある遺跡で出土する傾向が見られます。



### 関津遺跡

大津市の南郷洗堰の南、瀬田川の東に広がる水田地帯にあり、背後には藤原宮造営のための木材を伐り出したことで知られる田上山系が控えている。

県営ほ場整備事業に伴う調査で、調査地一帯は広い水田に生まれ変わった。平成16年度は西側の地区で調査を行っている。



棺に使われていた土器(縄文時代晩期)

調査では地面に穴を掘って土器の棺を横置きにした小さな墓が1基見つかりました。棺に使われていた土器の表面には煤が付いていて、煮炊きに用いていたものを使いまわしたようです。



集落内を区切る用水路

平安時代末から鎌倉時代にかけての建物群は周辺に残る条里地割と同じ方向で建てられ、溝で区画された敷地の中に規則的に配置されていたようです。井戸は建物群の小単位ごとに掘られ、井戸底までの深さが約3mもあるものもありました。建物群から少し離れた場所で見つかった土坑墓では、中国製の青磁碗と土師皿がほぼ完全な形で出土しています。

中世の田上地域には京都の寺院が管理する荘園がおかれていたようであり、見つかった集落跡はそういった荘園が形成される過程の中で計画的に集村化された可能性が考えられるものです。

中国製青磁碗と土師皿が出土した墓



区画の向きに揃えて並ぶ掘立柱建物の柱穴



# 夕日ヶ丘北遺跡

## 土地を鎮める 和同開珎

ゆうひがおかきたいせき

やすぐん やすちょう おおしのはら

野洲郡野洲町大篠原



夕日ヶ丘北遺跡は弥生時代から鎌倉時代にかけての集落跡で、古墳時代後期には周辺で須恵器生産も行われていた遺跡です。

調査では、奈良時代後半頃の掘立柱建物、平安時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物や周辺の条里地割と同じ向きの用水路などが見つかりました。

奈良時代後半頃の掘立柱建物の近くには、建物を建てる時に建物や敷地の無事を願ってその土地の神にお供えしたと思われる大量の和同開珎やガラス小玉<sup>しちん</sup>などが出土しました。これらは地鎮<sup>しちん</sup>に関するものといえます。



直径15cmほどの小さな穴に埋められていた  
ガラス小玉や水晶など

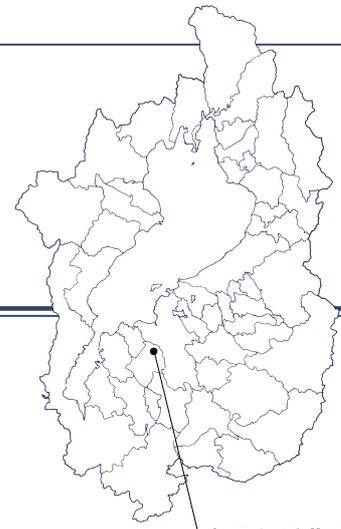
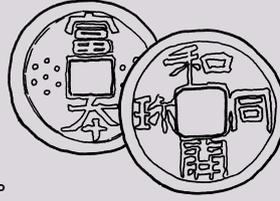


60枚近い和同開珎が埋められていた穴

和同開珎が埋めてあった穴は2ヶ所で見つかっていて、そのうち30～50cmの楕円形の穴からは53枚以上の和同開珎が出土しました。また、別の小さな穴からはガラス小玉や水晶<sup>しず</sup>などが出土していて、これも土地を鎮める目的で納められたものと思われます。

## 和同開珎(わどうかいほう/わどうかいちん)

701年に発行された銅銭で、奈良県の飛鳥池遺跡で「富本銭(フホンセン)」という銅銭が本格的に鑄造されていたということがわかるまでは日本最古とされてきました。「和同開珎、な<sup>(7)</sup>れ<sup>(0)</sup>始め<sup>(1)</sup>」といったゴロ合わせで、年号を覚えた方も多いのではないのでしょうか。



### 夕日ヶ丘北遺跡

J R 篠原駅の南東約1.5km、東海道新幹線沿いの水田地帯にある。

県営田園交流基盤整備事業に伴う農道建設工事に先立っての調査で、平成16年度も隣接地を調査中である。



奈良時代後半の掘立柱建物

奈良時代後半の掘立柱建物は6棟見つかり、柵を隔てて農地が広がっていた様子が見られます。役所や寺院以外の場所で今回のように多くの和同開珎が出土した例は珍しく、貨幣の行きわたりかたや使われ方を示す貴重な発見といえます。

平安時代から鎌倉時代にかけての溝の多くは、周辺に残る条里地割と同じ向きに掘られています。基幹の用水路となる溝は15m以上の幅をもつ大溝で、たくさんの土器がそこから出土しています。



中世の用水路

## 蜂屋遺跡 はちやいせき (栗東市大橋)

蜂屋遺跡は古墳時代から鎌倉時代にかけての集落跡で、調査は河川工事に伴って行いました。調査では弥生時代から古墳時代にかけての水路や井戸、鎌倉時代の耕作痕や掘立柱建物の柱穴などが見つかりました。



沼地状のくぼみと弥生時代の水路が見つかった調査区

# 大篠原西遺跡

## 里人の住む東山道沿いの村

おおしのはらにしいせき

やすぐん やすちょう おおしのはら  
野洲郡野洲町大篠原

大篠原西遺跡は平安時代末から鎌倉時代にかけての集落跡で、近世の中山道(現在の国道8号線)が遺跡の南端を東西に横切っています。調査では平安時代末から鎌倉時代にかけての掘立柱建物や井戸、敷地を区画する溝などが見つかり、黒色土器や土師器など多くの土器が出土しました。また、中山道に近接する調査区の南端では、古代の東山道に伴う可能性のある溝が見つかりました。



東山道の側溝の可能性のある溝

古代の東山道の側溝の可能性が考えられる溝は、調査区の南端で見つかりました。しかし、時代を特定することができず、確証を得ることはできませんでした。

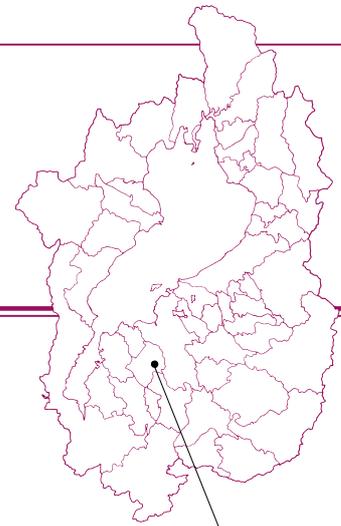


黒色土器や土師器の出土状況

調査地遠景(北から)  
調査区の向こうに国道8号線と西池が見えます

## 東山道（とうさんどう）

古代において奈良・京都の都から地方に向かって整備された7本の幹線道路のうちの一つで、近江国で東海道と分かれて出羽国（今の秋田県・山形県）まで通じていました。甲良町尼子西遺跡で見つかった東山道跡は、12m幅の直線道で、古代の国道の様子がわかる好例です。



### 大篠原西遺跡

史跡大岩山古墳群のある丘陵を越えて国道8号線をさらに3kmほど北上すると、右側に大きな池(西池)の堤防が姿を現してくる。県道建設に伴う発掘調査で、調査区は西池の東端あたりから左に入って中主町へと抜けていく道沿いにある。



平安時代末から鎌倉時代頃の掘立柱建物

鎌倉時代の紀行文『東関紀行』には、「篠原といふ所を見れば、東へはるかに長き堤あり。北には里人 栖をしめ、南には池のおもて遠くに見えわたる。」と記されていて、今回の調査で見つかった建物群がそこに記されている里人のすまいの一角だった可能性が考えられます。



「上」と書かれている墨書土器

## 十蓮寺遺跡 じゅうれんじいせき

(坂田郡伊吹町大清水)

十蓮寺遺跡は付近での五輪塔の出土などから中世の寺院跡とされている遺跡で、湧き水が名水100選に選ばれた泉神社に隣接する丘陵斜面にあります。調査は県営中山間地域総合整備事業に伴って行ったもので、寺院跡に直接関連するものは見つかりませんが、調査地周辺に見られる平坦面は14世紀頃には形成されていた可能性があることが明らかになりました。また、わずか1点ですが、縄文時代早期中葉の縄文土器の小さな破片が出土しており、伊吹山麓で展開される豊かな縄文文化の芽生えを示すものとして注目されます。



測量作業の状況

# 八坂東遺跡

## 河口の暮らし 畑を耕し、魚を捕る

はっさかひがしいせき

ひこねし はっさかちょう  
彦根市八坂町



調査地から琵琶湖を望む（右を流れるのが犬上川）

八坂東遺跡は白鳳時代（飛鳥時代後半）の寺院跡で、県立大学建設に先立つ調査では多量の屋根瓦や古墳時代の土器や埴輪などが出土しています。今回の調査では室町時代の畑や地震による噴砂、平安時代後期頃の掘立柱建物や井戸・溝などが見つかり、犬上川の洪水や地震などの自然災害と向き合いながら湖岸で暮らした人々の村の様子が明らかになりました。



溝で細かく区画された平安時代後期頃の集落

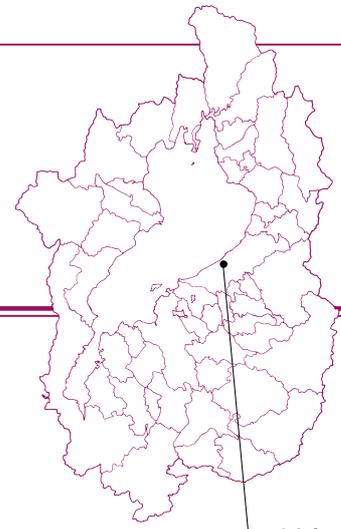


曲物（まげもの）を底に置いた井戸

平安時代後期頃の集落は、溝によって住居域と農地が大きく区切られていて、住居域は溝によってさらに小さな屋敷地ごとの区画に区切られていたようです。屋敷地の区画の中には掘立柱建物や井戸が整然と配置されていました。これらの区画の向きは周辺に残っている地割の向きと同じもので、この頃の農地景観が今に引き継がれていることがうかがえます。集落はその後、鎌倉時代になると別の場所に移動したようで、井戸の多くが意図的に壊されたような状態で見つかっています。

## 条里地割（じょうりちわり）

一町（約109m）四方の碁盤の目状に区画された日本の伝統的な農村景観のひとつで、計画的で大規模な農地整備の名残りといえるものです。古くは奈良時代の条里制に始まったと考えられますが、現在、滋賀県内でおよそ郡単位の広い範囲で残る条里地割の景観は、平安時代頃に形成されたものであることが徐々に明らかになってきています。



八坂東遺跡

犬上川が琵琶湖に流れ込む河口の南側、美しいキャンパスが広がる滋賀県立大学の構内に遺跡はある。調査は人間看護学部整備事業に伴って行ったもので、調査地には新しい学舎が完成し、学生たちが学んでいる。



室町時代頃の畑の跡

現在の地表面から約2.3mほどの深さで、室町時代頃の畑跡が見つかりました。鍬などの農具で耕した痕跡が何本もの平行する溝となっていて、溝が途絶えてくっきりと掘り残されている部分は、畑の中の通路だったと思われます。

魚捕りの網に付ける土製のおもり錘が多く出土しました。田んぼや畑を耕しながら、川や湖で魚を捕って生活していた人々の暮らしがうかがえます。



出土した大小の土錘

## 金剛寺城遺跡 こんごうじじょういせき

（近江八幡市金剛寺町）

金剛寺城遺跡はこれまでに行われてきた調査で、濠や建物跡などがみついている室町時代の城跡です。今回の調査は県道建設工事に伴うもので、近江八幡市立金田小学校に近い交差点脇の狭い範囲を対象としたものでした。調査では鎌倉時代から室町時代にかけての溝や井戸と見られる掘り込みなどが見つかりました。

道路脇での調査状況



# 国領遺跡

## 愛知川下流域の中世集落

こくりょういせき

ひこねし たづけちょう

彦根市田附町

湖東地域の広い平野部を形成した愛知川。その川の河口に近い堤防の北側で行った国領遺跡の初めての発掘調査では、平安時代から鎌倉時代にかけての集落跡が見つかり、多量の土器などが出土しました。



彦根市田附町八幡神社横の調査区  
(左上の茂みが八幡神社)



周辺の条里地割と同じ向きで建てられていた掘立柱建物。ほぼ同じ場所で建て替えられているようです。

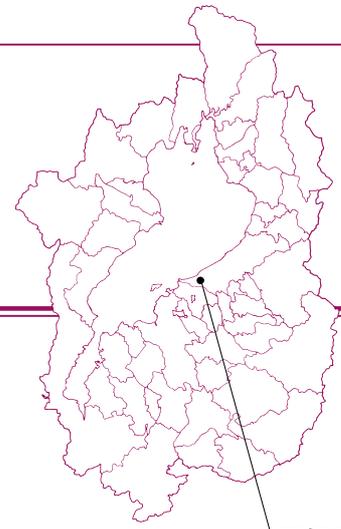
見つかった集落跡は、掘立柱建物や礎石建物、井戸、ゴミ穴、水路、湿地状の落ち込みなどで構成され、破損していない日常食器を含む、様々な生活用具がたくさん出土しました。



用水を分水したと見られる施設が設けられた溝。溝の斜面を杭や石で補強している可能性があります。

## 柿経（こけらきょう）

「こけら」と呼ばれる細長くて薄い木の板に、仏教の経典などを写し書いたもので、平安時代後半から鎌倉時代にかけて盛んに行われていました。長さ20cm、幅2cmほどの薄い板の片面または両面に写経したものを束にしてまとめ、経塚などに奉納されたようです。



国領遺跡

琵琶湖に流れ込む愛知川の河口から約4kmほど上流、川の流が西に大きく流れを変えた北側の堤防沿いに遺跡はある。

県道建設工事に伴う調査で、集落内の狭い道を迂回して湖岸道路へとスムーズにつながる新しい道の建設が進められている。



食器類をまとめて捨てた穴から出土した黒色土器の椀・土師皿・中国製の白磁の椀

調査地は愛知川の堤防脇の水分を多く含んだ土地条件にあったため、木製品などが良好な状態で残されていました。非常に薄い木の板にお経を書き記した「柿経」は、こういった条件ならではの出土品といえるもので、水が淀んだり流れたりを繰り返した湿地状の落ち込みの中から黒色土器や土師器とともに出土しています。



柿経（こけらきょう）「妙法蓮華経」などが書かれています

## 金田遺跡 かねだいせき

（彦根市金田町）

金田遺跡は愛知川によって形成されたかつての自然堤防にあたる微高地にある集落跡で、彦根市金田町と出路町に挟まれた水田地帯にあります。調査は一般農道の建設工事に伴って行ったもので、平安時代の河道や掘立柱建物、鎌倉時代の水田耕作に伴う鋤溝などが検出されました。

調査中の平安時代の溝。正面に荒神山を望む。



# 竜法師城遺跡

## 杣川流域を見下ろす山城

りゅうぼしじょういせき

こうかぐん こうなんちょう りゅうぼし  
甲賀郡甲南町竜法師

標高約220m、ふもととは約30mの高低差がある丘陵の先端に竜法師城は築かれていました。付近は江戸時代に手が加えられ、築城当時の構造を十分に把握することはできませんでしたが、出土した土器などから、安土桃山時代頃に築かれていたことが明らかになりました。



竜法師城遺跡遠景  
(中央の小高い山が城跡)



斜面に掘られた堀

見つかった遺構は3ヶ所の平坦<sup>と</sup>面と堀、山を削り残して作った土<sup>ほり</sup>塁<sup>い</sup>などです。堀は西側から延びてくる尾根筋を切断するような形で掘られていて、「コ」字型に平坦地を囲んでいます。その幅は2～3m、深いところでは4mの深さを測るものでした。

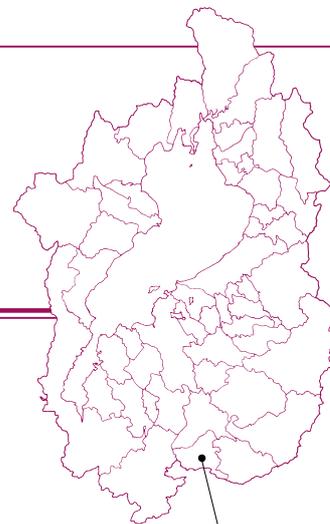
平坦地には江戸時代終わり頃の<sup>みずた</sup>水溜めの施設が作られているなど、城が築かれていたときの構造にかなり手が加えられているようですが、改変された土の下から、築城時のものと見られる焼けた土のかたまりや炭が入った穴が見つかるなど、断片的にその様子を知ることができました。



平坦地と土塁状の高まり

## 中世の山城（ちゅうせいのやまじろ）

鎌倉時代後半の全国規模の動乱の時代頃から、武士団は戦いに備えて平地の館（ヤカタ）を守り固めるだけでなく、険しい山に城を築くようになります。山城は敵を場内に進入させないための堀や土塁をもち、郭（曲輪 クルワ）と呼ばれる平坦面をつくって施設や広場・通路とするなど、様々な形態のものが見られますが、この頃はまだ高い石垣を持つような城は築かれていません。



竜法師城遺跡

JR草津線に平行して流れる杣川と甲南町野尻の集落を見下ろす丘陵上に遺跡はある。

第二名神高速道路と県道建設工事に伴う発掘調査で、山間の景観は大きく様変わりしてきている。



重なった状態で出土した土師皿

城の内部にある平坦面を見下ろす尾根の上で見つかった直径約40cmの穴から、40～50枚の土師皿が重なった状態で出土しました。安土桃山時代頃のもので、城の地鎮などの目的で埋められたのではないかと考えられます。



## 鍛冶屋敷遺跡 かじやしきいせき（甲賀郡信楽町黄瀬）

鍛冶屋敷遺跡は甲賀寺・紫香楽宮跡に関わる奈良時代中頃の銅の鑄造遺跡で、第二名神高速道路の建設工事に先だつての調査を行ないました。梵鐘などを作る大規模な工房跡が見つかった平成14年度の調査区に隣接する地区の調査では、銅を鑄造するための溶解炉と送風施設・鑄込み遺構からなる作業単位が南北に整然と列をなして並ぶ作業区画が、さらに2区画存在し、鑄造工房全体の規模が東西54m、南北81mにも及ぶことが明らかになりました。これらの作業区画は複数の工人集団によって同時に操業されていたと考えられ、銅製品を作る作業がきわめて急を要して進められていたことがうかがえます。



銅の鑄造工房の規模が明らかになった調査区（南から）



復元された溶解炉の送風口部分（平成14年度出土）

# 平成15年度 財団法人滋賀県文化財保護協会事業報告

## 1 文化財施設の管理運営事業 : 滋賀県立安土城考古博物館・滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県埋蔵文化財センターの管理運営事業

### ① 滋賀県立安土城考古博物館 年間総入館者数：47,960人

#### 特別展示

春季特別展「日継知らず可き王無し - 継体大王の出現 - 」

期 間：平成15年4月26日～6月8日

記念講演：「王権史から見た『継体天皇』」 明治大学教授 吉村武彦 5月3日

博物館講座：「継体大王の出現と尾張」 愛知県埋蔵文化財センター主査 赤塚次郎 5月18日

「越の継体関連遺跡について」 福井県立埋蔵文化財センター所長 中司照世 6月8日

入館者数：6,408人

秋季特別展「信長と宗教勢力 - 保護・弾圧そして支配へ - 」

期 間：平成15年10月11日～11月9日

記念講演：「安土宗論再見 - 信長と京都法華宗寺院 - 」 京都造形芸術大学助教授 河内将芳 10月12日

博物館講座：「安土城大手門周辺地域の調査」 滋賀県教育委員会安土城郭調査研究所主査 仲川 靖 10月26日

入館者数：5,363人

#### 企画展示

第26回企画展「親子で楽しむ考古学3 小さな遺物見つけた!!」

期 間：平成15年7月19日～8月31日

入館者数：7,864人

第27回企画展（財団法人滋賀県文化財保護協会大規模調査成果展）

「草津川発掘絵巻 - 新草津川関連遺跡発掘調査成果展 - 」

期 間：平成16年1月17日～4月4日

入館者数：6,738人

#### 普及啓発関連事業

博物館講座（上記以外）

「膳所城下町遺跡の調査」 財団法人滋賀県文化財保護協会主任技師 中村智孝 平成15年7月27日

「奈良県酒船石遺跡の調査」 明日香村教育委員会文化財主事 相原嘉之 平成15年8月17日

「愛媛県湯築城の調査」 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター調査第二係長 中野良一 平成15年9月21日

「鍛冶屋敷遺跡の調査」 財団法人滋賀県文化財保護協会主任技師 畑中英二 平成15年11月16日

「古代瓦の見方について」 滋賀県立安土城考古博物館主任 北村圭弘 平成16年1月25日

「古文書入門講座」 滋賀県立安土城考古博物館学芸員 高木叙子 平成16年2月15・22日

イベント：体験博物館（年6回）、子ども考古学教室（2日間）、お茶会（年2回）、親子写生大会、親子で楽しむ写真撮影会、夏休み自由研究相談、ミュージアムコンサート、名作映画鑑賞会、クリスマス映画会、史跡案内

刊行物：年報、紀要、博物館だより「おおてみち」（年4回）催しもの案内、展示図録等

### ② 滋賀県立琵琶湖文化館 年間総入館者数：13,416人

#### 特別展示「釈迦の美術」

期 間：平成15年10月11日～11月16日

記念講演：「釈迦の美術について」 神戸大学教授 百橋明穂 10月25日



安土城考古博物館 / 春季特別展・子供考古学教室・企画展・史跡案内

展示解説：10月25日

ボランティア展示説明：期間中の土・日曜日に実施

入館者数：2,236人

企画展示 入館者数：3,841人

	通 年
「近江の文化財」	平成15年4月22日～5月5日
「平成14年度滋賀県新指定文化財展」	平成15年4月22日～5月25日
「西明寺の羅漢図」	平成15年5月29日～7月6日
「湖辺集落を読む - 新守山川関連遺跡 - 」	平成15年7月10日～8月31日
「平安時代の彫像」	平成15年11月20日～12月28日
「髻と華鬘 - 金属工芸の粋 - 」	

テーマ展示 入館者数：7,323人

「円山四条派の絵画」	平成15年4月1日～5月25日
「花鳥の美」	平成15年5月27日～6月29日
「やきものと絵画」	平成15年7月1日～8月31日
「大画の世界」	平成15年9月2日～10月5日
「近世絵画の世界 - 狩野派から文人画まで - 」	平成15年11月18日～12月27日
「瑞祥の造形」	平成16年1月4日～2月15日
「明治人の書」	平成16年2月18日～3月30日

移動博物館講座 場所：滋賀県立琵琶湖文化館 参加者総数：61人

「黄金の造形 - 仏画を中心に - 」	平成15年6月4日
「仏像の美 - 用材観とその技術から - 」	平成15年6月21日
「仏具の荘厳と技法 - 金工品を中心に - 」	平成15年6月28日

館活性化事業

博物館友の会の活動支援・ミュージアムショップの運営

出前博物館 県内小中学校 7校378名 県外大学 6大学211人

展示資料管理事業

館蔵品・受託品の防虫防霉対策処理の実施

経年劣化に伴う館蔵品の修理 「絹本着色 柳渚双禽図 一幅」

刊行物 「浮城」第23・24号

③ 滋賀県埋蔵文化財センター 年間総入館者数：6,093人

常設展示「くらしの考古学」

期 間：通 年

入館者数：6,093人

特別展示「近江出土の木製品 - 道具と加工、樹種と製品」

期 間：平成15年11月1日～11月30日

入館者数：258人

滋賀県埋蔵文化財センター研究会 第82回滋賀県埋蔵文化財センター研究会

テ - マ：「平成15年度滋賀県発掘調査成果報告会」

日 時：平成16年3月6日



安土城考古博物館 / 秋季特別展 琵琶湖文化館 / 特別展示記念講演・展示解説・移動博物館講座

会場：大津市ピアザ淡海県民交流センター大会議室

参加者数：300人

刊行物 「滋賀埋文ニュース」第277号～第288号（毎月発行）

「埋もれた文化財の話」第24号（特別展示「近江出土の木製品 - 道具と加工、樹種と製品」関連）

- 2 文化財保護基金の貸付事業：滋賀県・県内市町村・民間団体法人・企業および個人からの出資金・寄付金をもとに、無利子で文化財保護・保存のための事業金貸付を行う。

貸付実行総額 6件 18,423,000円

- 3 埋蔵文化財の調査・研究・保護に関する事業：埋蔵文化財調査などの受託 45件

発掘調査 16遺跡（同一の遺跡を異なる事業で2件行っており、調査の対象となった遺跡は14遺跡）

試掘調査 10遺跡・整理調査 32遺跡・出土文化財管理 1件

- 4 文化財保護のための普及啓発事業：文化財に関する展示・講演会・シンポジウムなどの開催、刊行物の発行

#### ① 企画展示

平成14年度調査埋蔵文化財展「レトロ・レトロの展覧会2003」

期間：平成15年7月19日～8月31日

場所：滋賀県埋蔵文化財センター

内容：平成14年度に発掘調査を行った15遺跡について写真パネルや出土遺物を展示し、調査成果を紹介するとともに、解説パンフレットを作成し配布した。また、期間中の土・日・祝日と盆休みに「古代火起こし体験」コーナーを設けた。

（展示遺跡）大津市膳所城下町遺跡・栗東市下鉤遺跡・守山市赤野井浜遺跡・信楽町鍛冶屋敷遺跡・信楽町西念寺北古窯遺跡・水口町植遺跡・中主町西河原宮ノ内遺跡・近江八幡市里井遺跡・安土町内野遺跡・八日市市柴原南遺跡・彦根市松原内湖遺跡・米原町入江内湖遺跡・高月町宮沢城遺跡・木之本町黒田B遺跡・今津町高田館遺跡

入館者数：3,828人

大規模調査成果展「草津川発掘絵巻 - 新草津川発掘調査成果展 - 」

期間と場所：平成15年8月23日～9月15日 滋賀県草津文化芸術会館

平成16年1月17日～4月4日 滋賀県立安土城考古博物館

内容：昭和57年から平成13年にかけての20年間で実施した草津川改修工事に伴う発掘調査で、北萱遺跡・柳遺跡などの8遺跡で発見された縄文時代から江戸時代までの土器や木製品、遺構写真パネルを中心に展示、紹介を行ない、解説パンフレットを作成し配布した。

入館者数：7,473人（滋賀県草津文化芸術会館 734人 滋賀県立安土城考古博物館 6,738人）

講演会：平成15年8月30日 草津市立市民交流プラザ 参加者数 100人

「自然史・人類史から見た草津川」大阪経済法科大学教授 大橋 健

記念講演・シンポジウム：平成16年2月29日 滋賀県立安土城考古博物館 参加者数 82人

記念講演 「歴史地理学から見た古代の道」長崎外国語大学助教授 木本雅康

シンポジウム 「東西の陸の喉（のみど）なり - 近江の道の歴史を考える - 」

基調報告 「近江の古代交通路」財団法人滋賀県文化財保護協会 内田保之



「新草津川関連遺跡発掘調査で検出された古代交通施設」草津市教育委員会 小宮猛幸

「野路岡田遺跡の道路跡について」草津市教育委員会 岡田雅人  
コーディネーター 財団法人滋賀県文化財保護協会 内田保之

大規模調査成果展巡回展「湖辺集落を読む - 新守山川関連遺跡 - 」

守山市埋蔵文化財センター 平成15年4月26日～5月11日 入館者数 400人

滋賀県立琵琶湖文化館 平成15年5月29日～7月6日 入館者数 1,007人

「信楽古窯と陶芸家たち」(滋賀県立陶芸の森と共催)

期 間：平成15年8月30日～10月13日

場 所：滋賀県立陶芸の森陶芸館ギャラリー

内 容：信楽町金山古窯遺跡等出土遺物の展示

入館者数：7,698人

JR湖西線西大津駅構内文化財展示(年3回展示替え)

第1回「木製品の保存科学」 平成15年6月6日～9月16日

第2回「平成14年度発掘調査速報展」 平成15年9月16日～平成16年1月23日

第3回「草津川発掘絵巻」 平成16年1月23日～5月20日

## ② 刊行物

「文化財教室シリーズ」No209～212

「滋賀文化財だより」No288～293

「遺跡散歩マップ」No14 野洲郡編(野洲町・中主町)

「紀要」第17号

## ③ 発掘調査現地説明会などの開催

関津遺跡(大津市関津) 平成15年7月12日 参加者数25人

八坂東遺跡(彦根市八坂) 平成15年7月26日 参加者数100人

蜂屋遺跡(栗東市大橋) 平成15年11月24日 参加者数30人

関津遺跡(大津市関津) 平成15年11月29日 参加者数200人

鍛冶屋敷遺跡(信楽町黄瀬) 平成16年1月8日 参加者数120人

竜法師城遺跡(甲南町交流センター) 平成16年1月25日 参加者数180人 甲南町教育委員会と共催

入江内湖遺跡(米原町公民館) 平成16年2月1日 参加者数75人 米原町教育委員会と共催

夕日ヶ丘北遺跡・大篠原西遺跡(野洲町銅鐸博物館) 平成16年2月21日 参加者数30人 野洲町教育委員会と共催

赤野井浜遺跡(守山市杉江) 平成16年3月14日 参加者数210人

## ④ 文化財体験学習などの受け入れ

安土町立老蘇小学校 6年 40人 滋賀県立安土城考古博物館見学・整理調査体験 平成15年4月30日

大津市立上田上小学校 6年 25人 滋賀県埋蔵文化財センター施設見学・火起こし体験 平成15年5月1日

安土町立安土小学校 6年 98人 粟津湖底遺跡(粟津貝塚)出土品などでの学習 平成15年5月22日

大津市立石山中学校 1年 116人 滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・施設見学 平成15年6月3日

滋賀大学附属中学校 2年 25人 粟津湖底遺跡(粟津貝塚)出土品などでの学習 平成15年6月5日



普及啓発 / 大規模調査成果展・発掘調査現地説明会(八坂東遺跡・関津遺跡)

大津市立瀬田東小学校	6年	140人	滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・施設見学	平成15年6月9日
大津市立中央小学校	6年	25人	滋賀県立琵琶湖文化館展示見学・火起こし体験	平成15年6月13日
滋賀大学附属中学校	1年	26人	滋賀県立琵琶湖文化館展示見学・火起こし体験	平成15年6月20日
大津市立中央小学校 探検部		26人	滋賀県立琵琶湖文化館展示見学・火起こし体験	平成15年6月23日
守山市立守山南中学校	3年	30人	昔の暮らしについて	平成15年7月2日
滋賀県立大津清陵高校		5人	滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・施設見学	平成15年7月2日
滋賀大学附属中学校	3年	7人	整理調査・発掘調査体験	平成15年9月24～26日
米原町教育委員会「米っ子クラブ」	小・中学生	58人	米原町入江内湖遺跡発掘調査体験	平成15年9月27日
草津市立洪川小学校	2年	102人	滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・施設見学	平成15年10月22日
草津市立山田小学校	3年	99人	滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・施設見学	平成15年10月22日
草津市立笠縫小学校	3年	42人	滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・施設見学	平成15年10月27日
大津市立青山中学校	1年	6人	滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・施設見学	平成15年10月27日
大津市立瀬田中学校	1年	5人	整理調査体験	平成16年2月12・13日
多賀町立甲津畑小学校	5・6年	11人	滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・施設見学	平成16年2月16日

### ⑤ 生涯学習等講座・講演会・各種研修会などへの出講

社団法人滋賀県教育会 文化財講座 「よみがえれ紫香楽の宮」	(参加人数 105人)	平成15年5月22日
京都市考古博物館 文化財講座 「近年の紫香楽宮跡の発掘調査成果」	(参加人数 122人)	平成15年5月24日
甲西町立下田公民館 歴史出合い講座 「古墳時代の近江」	(参加人数 35人)	平成15年5月27日
近江町はにわ館 北近江考古学セミナー 「入江内湖遺跡の事例報告」	(参加人数 62人)	平成15年5月31日
甲賀郡文化財保護連絡協議会 研修会 「鍛冶屋敷遺跡の発掘について」	(参加人数 20人)	平成15年6月25日
守山市・野洲郡勤労福祉会館 つがやま市民教養講座 「紫香楽宮関係遺跡調査の最前線」	(参加人数 33人)	平成15年7月19日
安土城考古博物館 博物館講座 「膳所城下町遺跡の調査」	(参加人数 75人)	平成15年7月27日
多賀町教育委員会 文化財講座 「敏満寺と信長」	(参加人数 20人)	平成15年8月2日
多賀町教育委員会 文化財講座 「勾玉作り・玉類の話」	(参加人数 32人)	平成15年8月9日
守山市埋蔵文化財センター 歴史入門講座 「犬上川流域～縄文の集落～」	(参加人数 30人)	平成15年8月16日
愛知川町教育委員会 文化財講座 「時代を生き抜く～関西縄文社会の戦略とその革命～」	(参加人数 40人)	平成15年9月3日
県立守山養護学校 体験学習 「土器・化石などを使っての体験学習」	(参加人数 21人)	平成15年11月10日
安土城考古博物館 博物館講座 「鍛冶屋敷遺跡の調査」	(参加人数 82人)	平成15年11月15日
大津市歴史博物館 古都・大津歴史シンポジウム 「膳所城下町遺跡の調査」	(参加人数 400人)	平成15年11月22日
信楽町立多羅尾小学校 教職員研修 「紫香楽宮関係遺跡調査の成果報告」	(参加人数 12人)	平成15年11月26日
栗東歴史民俗博物館 歴史フォーラム 「縄文人のくらしを探る」	(参加人数 100人)	平成15年11月30日
愛知川町教育委員会 子供歴史体験教室 「勾玉作り」	(参加人数 25人)	平成15年12月20日
東大寺 ビッグ・ブッダ・シンポジウム 「鍛冶屋敷遺跡の調査」	(参加人数 600人)	平成15年12月21日
甲南町教育委員会ほか 城郭フォーラム甲賀・伊賀の城 「竜法師城の発掘調査ほか」	(参加人数 180人)	平成16年1月25日
八日市市建部公民館 歴史講座 「建部町周辺の縄文時代の遺跡」	(参加人数 13人)	平成16年2月20日
京都府教育委員会・財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 埋蔵文化財セミナー		



普及啓発 / 発掘調査現地説明会（蜂屋遺跡）・体験学習等（展示見学・火起こし体験・職場体験）

「鍛冶屋敷遺跡の大規模鋳造工房」	(参加人数 105人)	平成16年 2月21日
滋賀県立陶芸の森 信楽焼の原点を探る		
「中世信楽焼 - 金山窯の発掘調査から - 」	(参加人数 100人)	平成16年 2月29日
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 企画展に伴う検討会		
「江戸時代信楽焼の発掘調査成果について」	(参加人数 50人)	平成16年 3月 6日
野洲町立歴史民俗資料館 文化財教室講演会 「近江のハニワ」	(参加人数 25人)	平成16年 3月14日

⑥ 各種研修・一般見学などの受け入れ

独立行政法人国際協力機構(JICA)海外研修生	8人	保存科学実習	平成15年 5月12～16日
近江歴史回廊倶楽部大津南支部	20人	滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・施設見学	平成15年 6月 4日
社会福祉施設今津町さわやか荘入居者	28人	滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・施設見学	平成15年10月21日
富山大学人文学部考古・文化人類学専攻	10人	粟津湖底遺跡・赤野井湾遺跡資料見学	平成15年12月19日



平成15年度調査埋蔵文化財展  
レトロ・レトロの展覧会  
2004

平成16年(2004年)7月

編集・発行  
財団法人滋賀県文化財保護協会  
大津市瀬田南大萱町1732 2  
電話 077 548 9780  
FAX 077 543 1525  
印刷・製本  
宮川印刷株式会社  
電話 077 533 1241

普及啓発 / 体験学習等 (発掘調査体験・出土品学習)

「レトロ・レトロの展覧会2004」はいかがでしたか? : ご感想などmail@shiga-bunkazai.jpまでお寄せ下さい。

